

平成26年度 第5回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ ボランティア活動の現状と課題～



日時：平成26年11月13日（木）

午後6時30分～8時00分

場所：川越市役所7階 第5委員会室

参加者

川越市ボランティア連絡会、

川越市ボランティアセンター・ボランティアアドバイザー 20名

出席者

市長、奥山副市長、市民部長、福祉部長

意見数

分類	件数	内容	頁
保健・福祉・医療	9	ボランティア団体への助成金	2
		要約筆記用機器の購入と保管場所	3
		ボランティア募集と活動場所の確保	5
		西図書館の点字プリンター活用	8
		ボランティア活動への問い合わせ対応	9
		福祉バス	10
		認知症サポーター養成講座	15
		ボランティアへの感謝の気持ち	18
		ボランティアポイント制	22
教育・文化・スポーツ	3	ブックスタート事業	10
		社会福祉協力校	13
		オリンピックボランティア	14
都市基盤・生活基盤	6	防災無線	15
		シャトルバス	16
		障害児の災害時対応	19
		災害時の情報伝達方法	21
		災害時の安否確認用紙	21
		西川越駅から保健センターへの道路整備	21
地域社会と市民生活	2	市民センター設備	12
		大東市民センターの立地	18
その他	1	ボランティア休暇	10
計	21		

意見交換（要約）

《ボランティア団体への助成金》

意見 こんばんは。今日はタウンミーティングということでお招きをいただきました。ありがとうございます。身近にこうして市長様を初め副市長様それから部長様たちとお話ができるということで、皆さん期待して参りました。いろいろと意見も出てくると思いますが、よろしく願いいたします。

私はボランティア連絡会の一応会長をしておりますが、今回どうしても出られなかった、このほかに手輪の会さん、それからすみれの会さんもいらっしゃるということで、またその方たちのご意見がありましたら、後でお届けしたいと思っております。

私たちボランティア連絡会というのは、本当に皆さんそれぞれの地域で活動をしていらっしゃる方たちが集まって、何か足りないとき、人数が足りなかったらどうしようとか、こういうところはどうしたらいいんだろうとか、そういうことで話をしております。そういう会でございます。予算も何もいただいておりません。自費で活動しております。これだけは言ってほしいと言われました。そんな感じで、とても楽しくそれぞれの地域で活動をしていただいております。

私は、菜の花の会ということで後ろに3名いますけれども、平成2年4月に結成いたしました。本当のボランティアでございます。ご近所のお年寄りの方たちをお招きして、月に1回、いろいろな面で活動をさせていただいております。

言いにくいんですけれども、私たちも予算が限られておりまして、社会福祉協議会から人数に合わせて幾らというのをいただいているだけ。あとは自分たちの役員さんのご主人様も全部入っていただいて、会費だけを納めていただく。そのほかに車を出していただいたりとか、そういうボランティアもさせていただいております。とても和やかで、今、44～45人がおりますが、どなたも文句を言わない。本当にすばらしいです。今日も参加している人がすごくまとめる人で、私はそばで後ろでちょろちょろしているほうでございますが、そんな感じでとてもよくやっています。

できれば、少しでも助成金とかね、本当の福祉でやっているところにもいただければいいかなという気はいたします。以上でございます。

市長 これはご要望というふうにとらせていただいてよろしいですね。

意見 結構です。

市民部長 ご要望として承りました。

《要約筆記用機器の購入と保管場所》

意見 要約筆記の会竹とんぼと申します。私たちは、平成8年から活動しておりますけれども、約20年近く活動している中で昔はOHPを利用しました。今はOHCという機械を使うようにしております。OHPが製造中止になりまして購入できないので、それを昔から市に購入をしてくださいとお願ひしていましたが、一切応じていただけませんでした。ですから、私たちは勉強するにも、その機械がなければできない状態でしたので、個人で購入しました。何十万もするものです。

それから、その後しばらくたって、パソコン要約に移動してきました。そのときにもプロジェクターが必要でした。パソコンは個人のをみんな利用しております。プロジェクターぐらいは、市で買っていただけるものかなと思いましたが、これも一切、貸していただくこともできなかったです。それもやはり購入しました。

私は、全要研といいまして、全国の要約筆記の会に所属しておりますので、幾らか市販よりは安めに購入はできたんですけど、プロジェクターは十何年前も36万円ということだったので20万円ぐらいで買いました。そういうふうにして個人のお金で用意して勉強せざるを得ませんでした。今現在、社協をお借りして講習をしているみたいですが、そこでもOHCじゃなくてまだOHPです。これから使わないOHPで練習をしているみたいですが、これは社協に置いてあるOHPを使わせていただいているみたいです。

ですから、こういう絶対に必要なものは、要求があったらやっぱり用意してほしいなと思っております。そのプロジェクターもOHCも全部、私が代表をしておりましたので、私個人で購入いたしました。うちの家族も黙認してくれましたのでやってこられましたけれど、これからの人たちに対して、それは言えないなと思って。私は個人のものでしたらどうにでも使っていただけますので、会に寄附しようという気ではあります。絶対に勉強には必要なものなんだということを、多分障害者福祉課の方もご存じだろうとは思っています。けれども、一切用意して下さるという気は今までなかったような気がいたします。これからずっと、高齢時代で難聴の方が多くなってまいりますので、ますます必要な機械だろうと思います。これから勉強していただく方にも必要なものですので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、そういう重いものを持って歩くのに、保管場所が必要です。私たちは今、南公民館で定例会を2回持っておりますけれども、持って行くのにあたり、私はもう車に乗れませんので、その重いものを手で持って歩きました。何十kgもするものを持って歩くんですね。ですから、保管場所みたいなものを公民館の中につくってほし

いなという気はあります。でも、個人の物を公民館で保管するという事はなかなか難しいということをおっしゃいました。でも、そういう大きな荷物で持って歩かなければならないようなものの保管場所みたいなものを是非つくってほしいなと思います。

何か、要望ばかりで申しわけございませんけれども、自分が今まで感じてきた、苦労したことを話させていただきました。よろしくお願ひいたします。

市長 皆さんが手弁当でボランティア活動をやっているというのは、行政にとっては本当に助かることとか、ありがたいことではあるんですが、ざっと考えたところ、民間の方が取得するもの、それが皆さんのためになるものであっても個別補助みたいな、そういう制度はちょっと見当たらないような気がするんです。ですから、今まで市の職員に言っても無理ですよという、そういう返事になってしまったのではないだろうかと思います。ちょっと検討はしてみますけれども、何らかの形でそういうような補助が、制度があるのかどうかということも含めて、検討させていただきたいと思います。

意見 木下財団というのがございますね。木下財団は東京に事務所があるんですけども、そこで私は埼玉県支部長をしていたときに、埼玉県支部として木下財団から寄附をしていただいて（機器を）購入したことはあるんですね。

ただ、NPOとかそういう活動をしているところは、申請した年はもらえないにしても、何年か後にはいただけるというようなことで、私は全要研の埼玉県支部をやっていたときに、満額をもらえるわけではなくて、そのときは27万円のOHPに対して20万円寄附をしていただきました。寄附というのを申請してもらいましたけれども、そういうものはありますけれど、ただ、各市町村の報酬を受けながらやっているものですから、そういうところへお願いできるものかどうかわかりません。全要研の場合にはNPOですので、そういうことで許されたのかなと思ひながら、一応利用させていただいたことがありますけれども。

奥山副市長 ボランティア活動に対しては確かに運営に関する部分についての補助は制度的にはありますし、あとはボランティアの活動に積極的に参加をしていただくための講習会とか、講習会を開くための経費に対する補助などは公的な制度としてはあります。実際その活動をするに当たっての機器ですとか備品を購入するものについての助成制度としては、ちょっと記憶には今のところはないので、よく調べさせていただきたいと思ひます。

意見 よろしくお願ひいたします。

《ボランティア募集と活動場所の確保》

意見 こんばんは。私は社協のボランティアのアドバイザーをやっておりますけれども、今日の会では、グループの踊りの会の藤の会のほうで参加させていただきました。

15年ぐらい前からボランティアさんの登録を呼びかけてきたのですが、その後、だんだんボランティア登録も少なくなりまして、そのころ登録した人が今70代から80代になってきました。それで、私どもは保健センターで、託児のボランティアが非常に多いんです。1週間に1回はありまして、事業のボランティアに3人ぐらいは出ております。何せ高齢者なものですので、若い人を登録してほしいということで活動はしてまいりますけれども、PRする場が全くないんですよ、若い人にボランティアをどうぞというのが。それで、この間、健康まつりのときにチラシを配りましたけれども、そういう場に来る人たちは、やはり皆さん年配なんです。それで、若い人をどうやってボランティアに入れて活動に参加していただくかと悩みの種です。

70代、80代の私たちは、託児ができないかわりに福祉まつりとか健康まつりとか、そういう事業に手づくり品をつくって、少しでも皆さんの交流の場を盛り上げていこうということで、最近は活動を方向転換しています。日ごろ自治会とか公民館とかで活動したいんですけれども、最近は公民館も使用料が取られるし、自治会でもやはり自治会員でないと自治会の会場を借りられないとかありまして、しかも、それで使用料が半日で1,000円とか、すごく高いんですね。となると、ボランティアでやっている会では、その使用料というのがすごく負担になるんです。

ですから、もっと公民館とか、市の何か建物を簡単に借りられるような、そんなシステムがほしいなど、いつも会では言っているんです。居場所が本当になんないんですよ。保健センターでも、ボランティアの事務所ですね、そこを借りてやっているんですけれども、それですと窓口事務もありますし、作業的には事務の方にとっても迷惑がかかってしまいます。できれば保健センターの地域活動室でも有効に使わせていただければなと思います。公民館とかそれから自治会館をもっと簡単に借りられるような、そんな自治会への呼びかけもぜひお願いしたいと思います。

意見 私は「しらこぼと」というグループの会長です。創立しまして25年になりますが、私は市に働きかけ、公民館を今は無料でお借りしております。それはとてもありがたいことで、大東市民センターができましたけれども、そちらにお部屋を借りておりますが、これは市へお願いをいたしまして、そのかわり、市には地域からの問題に対しては必ず対応をするという一約を入れまして、無料で使わせていただいております。

ます。お弁当を福原にあります花の人の家というところから取りまして、ひとり暮らしの方にお弁当を配っております。第1と第3の火曜日に45食配っておりますが、おひとり暮らしの方が大変喜んでくださっております。

それで、一番お願いをしたいのは、やはり若い人ですね。若い人をどうやってこの後引き継いでもらえるかということ、これを一番懸念しております。私も後期高齢者になりましたから、この後どうやって若い人に引き継いでいってもらえるか、これに一番頭を悩ませております。でも、おかげさまで楽しくできている。おひとり暮らしの方とこういうときでないとお話ができない。そういうことがありますので、大変役に立っております。

実は、去年、地域の自治会の班長をやりまして、いろいろな回覧を回したりなどするのですが、ひとり暮らしの方はとてもおしゃべりがしたいんですね。私、おしゃべり屋でございますから、相手をするのはとても良いのですが、回覧板一つも回らなかつたりということがあります。でも、とてもお話をしたがついていらっしゃる。こういうところを上手に自治会なり何かを取り上げて、そのお話をする場所、もう本当に小さいお部屋で良いのですけれど、そういうところが気軽に使えるようになると思っております。

今の要望はそのぐらいでございます。いろいろ申しましたけど、よろしくお願いたします。若い方にも入っていただきたい、これもどうやって若い人を引っ張るかというのは、魅力がなかったらやっぱり入ってこないのかなと思っておりますが、そういう点も皆さんのお話を聞きたいと思っております。よろしくお願いたします。

市長 まず、公民館の使用料について。

市民部長 先ほどちょっとお話を聞きまして、公民館だとか自治会館が有料ということなんですけれども、基本的には公民館は今、減免がなくなりましたので、有料ということでお願いしたいんです。ただ、お話をうかがって、自治会館を無料で貸し出せる方法というのはあると思うんですよ。今、ボランティア募集のPRだとか、これは自治会だよりというのがございまして、年4回出しており全戸配布ですので、その中の一つの記事として、ボランティアの募集というのを、皆さんから記事として載せていただければいいかなというふうに思っています。また、若い人への引き継ぎにつきましても、私は市民部で自治会を担当しておりますが、やはり自治会と手をつなぎあって、自治会と協力しあってボランティア連絡会の方々とやっていけば、何かより良い方法が出てくるのかなと思っております。自治会もやりたいことがいっぱいあるんですよ。ただ、まだアイデアがないというところがあって、自治会は地域ごとにやってい

ますけれども、市全体としても考えなければいけない事業でございます。これから先、お年寄りへの配食サービスなどは、自治会ごとにやらなければいけないことですので、ぜひ今度、市長とのタウンミーティングということではなくて、自治会と1回話し合いを持って、その中で来年度自治会としてやっていくことが出てくると思います。特に自治会館については、事前に言っていただければ、近所の自治会でうちのほうはただでいいよというところがあると思います、当然。絶対あります。そういう自治会もありますので、ですから、ぜひ言っていただきたい。

公民館は、ボランティアさんだけ特別扱いするというのはできませんので非常に難しいですけれども、自治会館については、その自治会の自治会長の裁量にもよります。いろんな自治会がございまして、自治会館の補助につきましては、建設については市で補助していますから、その分、その自治会だけではなく、地域のボランティアの方々にも無料で開放していくというのは、多分自治会でやってくれると思います。今、自治会も変わろうとしている時期でございます。言っていただければ、より良くなるのかな、というふうに思いますので、よろしく願いいたします。

意見 ありがとうございます。

意見 それに関連して良いですか。

自治会館を借りる場合、グループの中にはその自治会の会員ではない、いろいろな町内の人がいるんですよね。ですから、その場所を借りる人が代表で、メンバーの中にほかの町内の人がいるとだめなんですって。貸してくれないんです。

市民部長 ですから、そういうふうな決まりも、例えば自治会館はその町内の人たちがお金を出し合って建てたわけですから、できれば町内のために使いたいという決まりがあるかもしれません。それを営利目的で使うわけじゃございませんので、あくまでも地域のためにボランティアとして使うということですので、そこら辺を理解してくださる自治会長というのは今いっぱいいらっしゃいます。私も自治会長さんとおつき合いして、非常に皆さんすばらしい方ですので、それは大丈夫です。今電話してもオーケーと言ってくれる人ですので。

意見 そうですか、ありがとうございます。

市長 多分、自治会によって扱いが異なるんだと思うんですよね。誰か1人、その自治会の人が入っていて、その人が借りる手続をやるのであれば、自治会外の人が大部分であっても、何も文句を言われぬという自治会もありますし、自治会のルールで会員以外には貸さないということを決めている自治会もあるのかもしれませんが。その辺のところはうまく工夫をして、使えるようにしていただきたいと思います。

それと、若い人がボランティアになかなか加わってくれないという点について、広報につきましても、例えば市の広報にこういう団体が会員を募集していますよとか、そういうのを載せるのは多分可能だと思います。

※ 広報室に確認したところ、会員募集に直接結びつくことは「情報アラカルト」には掲載できないとのことでした。

意見 人集めとかいろいろな点で参考になるかどうかわかりませんが、私たち菜の花の会は、皆さんが本当にボランティアで毎月お花見に連れていったり、それからゲームをしたり、そういうことで1年間やっているんですね。ですから、皆さんが集まってこないということはないですね。若い方たち、たくさんボランティアで来てくれています。1回入られた方は、もうやめない。ずっとボランティアをしていただいているんですね。ですから、うちは後継者もちゃんとおります。私が頑張っているだけなんですけど、本当にすばらしく皆さんが動いてくださっている。

それから集会場ですが、もちろん無料でお借りできます。自治会長さんも大変私たちに好意的でございまして、いろいろなことの要望を聞いてくださるので、身近に話し合いを、本当にお話し合いをしたらうまくいくんじゃないかな、ちょっと思いました。

市民部長 ありがとうございます。

《西図書館の点字プリンター》

意見 こんばんは、お世話になります。オアシスにございますボランティアセンターでアドバイザーをさせていただいております。よろしく願いいたします。

こちらにはコーダル・チャイムということで名前を出していただいておりますけれども、このチャイムというのは音楽をする団体でして、施設に伺って演奏させていただくというところがございます。私は、それよりももっと長くしておりますのが、きつつきの会といいまして、点訳グループですね。市の点字講習を受けまして、その後、お誘いがあってきつつきの会に入れていただいて、もう15～16年になりますけれども、実はその件で今回わかったことがございまして、それに対してお伺いしたいと思います。

実は、10月にございました障害者スポーツ大会のプログラムを毎年きつつきの会で点訳させていただいております。その打ち出しは、今まではずっと社協オアシスの中の点訳室で打ち出しをしておりましたが、今回、運悪く機械が壊れてしまいましたのでどうしたものかと思いましたが、会の中のメンバーの一人から西図書館の中に

機械があるらしいという情報をいただきましたので、そちらで対応させていただきました。

そのときに幾つかわかったことがあるのですが、この西図書館にあります点字を打ち出す機械（プリンター）はほとんど使われていないという状態だそうです。それで、市ではどのような目的で設置なさったのかということと、それを使われる団体であるとか、個人であるとか、そういうところに制限をしていらっしゃるのかということをお聞きしたい。私たちのきつつきの会でも、ようやく市の中にプリンターがほかにもあるということを知ったわけです。周知されていないんですね。点訳をなさる方が川越市の中に多分たくさんいらっしゃると思うので、皆さんにもこういう機械があるのだということをぜひお知らせいただきたい。宝の持ち腐れというのではもったいないので、ぜひお願いしたいと思います。

要望ということで皆様に周知していただきたいということなのですが、いかがでしょうか。

市長 なぜ西図書館にそういうプリンターがあるかということについては、大変申し訳ないのですが、私は、今それに関する知識を全く持ち合わせていません。

ただ、ここにこういうものがあるんだよというのは、それはあるのであれば、まさか職員専用というわけではないでしょう。皆さんに使っていただくためのものが使われていないというのは、それこそ宝の持ち腐れですので、その辺についてはしっかりと広報はしていきたいというふうに思います。

意見 ありがとうございます。ぜひお願いしたいと思います。

《ボランティア活動への問い合わせ》

意見 アドバイザーというお仕事をいただいておりますわけですが、その窓口で電話の対応をしておりますと、時たまボランティアをしたい、あるいはボランティアを探しているということで、市にお電話をなさって、そうしますとボランティアというその5文字がつくだけで、もう社協のほうに電話が回ってくるというような、そういう状況が現実にあるんですね。それでお話を伺って、私どもで対処できればよろしいですが、結局、市にご相談なさってはという言葉が投げかけることも多々ございます。そうしたときに、それを受けるご希望の方とか、そういうふうな意思をお持ちの方はどう思うだろうと思うんです。ぜひ、市でもう少し、ボランティア＝社協ではなく、もっと優しく市民の声を聞いていただきたいなというふうに思っております。

《ボランティア休暇》

意見 私は、前に施設と話し合いをしたときに、施設の職員から市の職員としてボランティア休暇というのがあるはずだけれども、という一言が出たんです。そういうものというのはいかがでしょうか。もしあるということであれば、ぜひそれを活用して市の職員の若い力をぜひお貸しいただきたいなと思っております。

奥山副市長 東北大震災の関係で行くときのものはありますね。

市民部長 重油が流出した時にもありました。それを取りにいくという。そういう休暇は大災害のときにはあるみたいですよ。

けれども、通常のちょっとしたボランティアというのは、あくまでも自分でボランティアをするために休暇をとっているのかもしれないですね。

意見 これを機会に、市の職員の皆さんがボランティアというものに対して関心を持っていただいて、ぜひ登録をしていただけたら、私どもはとてもうれしく思いますので、よろしく願いいたします。

※ 職員課に確認したところ、「ボランティア休暇」は、自発的、且つ報酬を得ないで社会に貢献する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合、1年につき5日付与されます。内容は①地震等被災者を支援する活動 ②障害者支援施設等における活動 ③日常生活を営むのに支障のある者の介護などの日常生活を支援する活動が対象となるということです。

《ブックスタート事業》

意見 ブックスタートという事業を図書館でしています。4カ月児の健診のときに絵本を市で差し上げるというものですけれども、こちらに初めのときからちょっと携わらせていただいています。市の予算がとても厳しいというのは重々承知しておりますけれども、ぜひこの灯を消さないように、来年度も予算の中に組み入れていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

市民部長 それは要望として承りました。

《福祉バス》

意見 私は、川越のボランティアセンターのアドバイザーをさせていただいております。こちらには「シニアピア」というふうに名称が書いてあり、皆さん、どうのことだろうと疑問に思われた方もいらっしゃるかと思うのですが、「シニアピア」というのは、私が傾聴の講習を受けさせていただいたときに、最初に対象は高齢者の方と

ともにというふうな意味で、こちらの名前をつけさせていただきました。

最初は病院に入院されている方のお話し相手をさせていただいていたのですが、最近は療養型が多くなりまして、長く入所（入院）されている方が多くなっています。体力などが下がってきて、お話というよりは、どちらかというとなら歌と一緒に歌うとか、そういうことが中心になってはいますが、歌を交えながら少しずつ会話を楽しむというようなことで活動をさせていただいています。

こちらには一応「傾聴」という形で載せていただいたのですが、今日私がここに来るために何があるだろうということを考えました。実はこれ以外にもボランティアをしております、このボランティアももう7~8年になるんですけれども、精神のソフトバレーのサポーターのボランティアをさせていただいております。

普段はこの方たちも自分の病気と向き合いながらお仕事をしたいんだけど、そこまでなかなか行きつけなくて、そういうところを行ったり来たりしながら、バレーボールの試合をしているんです。大会がありますので、そちらに向けて練習をしています。そのときに試合も近場の川越市でやるということはほとんどありません。本庄とか入間とか上尾とか、そういうところで試合をやることが多くて、決勝で上尾の方に行くとなると、3回行くことになるんですね。そうすると、少なくともバスを2回は利用できれば良いのにと考えています。この予算をある程度出していただけたらと思います。

NPOから一応1年分として大体6万円ぐらいは補助金が入るのですが、あとはメンバーの自己負担です。ボランティアも一緒にバスに乗っていく場合には、幾らかは一応出すということになってはいますが、それにしても、バスを1台借りると1回分で大体6万円ぐらいかかってしまいます。その負担金を抜いたとしても1回分で大体70%ぐら이가バス代にかかってしまうということなんです。

市の福祉バスがあると思いますが、何年か前に精神障害の方たちも使用できないかということでご相談に行ったような話を聞いたことがあるんですが、結局は対象にできませんというお返事だったらしいんですね。何回かやってきているので、もしかして直接、ボランティア側からのお声というよりも、そのご本人たちが直接訴えるというほうが力は強いかもしれないんですが、私たちも一緒に練習をさせていただいて試合も行っていますので、そのような事態を見ていると、少しは力になれないかなと思いました。ほかの障害を持っている方は、年に2回ぐらいい市の福祉バスを利用できるというように聞いておりますけれども、今後、検討などをしていただければと思います。せめて2回ではなくて、1回でも使用できるようになると、みんなの負担も軽く

済むと思いますし、バスで行ければみんなでミーティングをしながら行けますので、すごく助かると思っております。ご検討をよろしく申し上げます。

市長 障害者の方の移動に関する補助みたいなものはありますか。

福祉部長 今おっしゃられたように、福祉バスという制度がございます。精神障害の方が対象外であったかどうかははっきりと記憶しておりませんが、そのようであれば、今後はその利用の拡大について検討させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

意見 よろしく申し上げます。ありがとうございます。

《市民センターの設備》

意見 一言お願いがありまして伝えさせていただきたいと思っております。

実は、大東市民センターや保健センターなどのガス台のことです。ガス台の元栓が下についているんです。設計する時に男性の方が設計されるのではないかと思うのですが、這いつくばって消さなければなりません。ですから、そこだけがほとんど壊れているんですよね。やはり、ガス栓とかは上につけていただかないと。お年寄りたちが大変な思いをして消しているんです。これからセンターの方式が幾つもできると思いますが、手元で消せるような設計にさせていただきたいです。

それから、調理実習をするときに、ガス台とか電気の台で使うところが3つもついていますが反対で、洗うところがものすごく狭いんです。ですから、大きな鍋とかが洗いづらいんですね。どうしてそういうことになるのかなと思います。以前の古いものは流しもすごく広いし、ガス台も小さくて、使い勝手が良かったんです。ガス栓とかは目の前で、手のところで消せるような設計をしていただければありがたいと思います。

市民部長 貴重なご意見ありがとうございました。

意見 今の件に伴う意見ですが、最初に気づいたのは高階市民センターなんですね。今、会長も話されたと思うんですけど、ガス台と流しとか逆に設置されているために、鍋が入らなくて洗えません。それを申しましたら、今度、大東ではなく名細に新しくできるということをお聞きしていたので、その話を出したんですけど、何か話を聞きますと名細もそのような状態だと。ですから、設計は女性が1人も入っていないのか、使う方たちの話を聞いてつくっていただいているのかどうかということです。

意見 設計をされているときに、女性の設計士じゃなくても、市の方たちでも女性で

あればわかると思うんです。最初にあったところでお話を出したんですけど、全部新しくできているところがみんなそういう状態だということをお聞きしています。

市民部長 市民センターは私の所管ですので、これからぜひそんなことがないように、その2点については、必ず申し伝えておきます。

意見 よろしくお願ひしたいと思います。

意見 市長さんとミーティングして、大東の市民センターができるときに、いろんな分野の方を入れてもらって設計してくださいとお願ひしたはずなんですよ。

市民部長 要するに既製品で、新しいものを買ってくるわけですね。ガス台などはそのためにつくるわけではありません。

市長 なかなかそういうきめ細かいところまで気持ちが行き届かないという面はあると思いますので、今後、十分配慮いたします。

意見 これからそういうことを生かしていただきたいと思います。

市民部長 ありがとうございます。

《社会福祉協力校》

意見 サークルオリジンと川越市手輪の会にも加入しておりますので、それにあわせてお話しさせていただきます。

オリジンというのは、昭和50年にできまして、もう何十年もたちます。ずっと知的な障害を持つお子さんと一緒に、今、お子さんが大きくなってしまいましたが、その方たちと一緒に活動をさせていただいています。うちの子供たちも赤ちゃんのときから障害を持つ方たちと一緒にいます。

私たちの世代になると、やはり偏見というのはどこかにあるんですね。ところが、赤ちゃんのときから一緒に育っている子供たちというのは、私の孫もそうなんですけれど、例えばそこにキャーと大きい声を出す子がいて怖いとは思いますが、でも、慣れるんですよ。大人と違って偏見を持たないんです。それで、子供たちがそうやって育っていくというのは、とても大事な事かなというふうに私は考えております。

それで、平成の最初のころは社会福祉協力校というのがありまして、お金が協力校にっていました。それで、私のところの手輪の会ですとか、菜の花の会で車椅子等を教えに行ったりしていますし、手輪の会では手話を教えにいたり、聞こえない人たちが自分の経験をお話しするなど、子供たちにさせていただいています。それが小学校・中学校です。

最初のころは、そのお金が出ていたおかげで、そこに教えに行く講師の人たちの足代ぐらいはいただけたのですね。ところが、今はとてもお金がないみたいで、足代もいただけていないという感じです。私は車を運転しますので別にそんなには、と思いますが、例えば電車に乗って子供たちの指導に行く人たちも足代も出ないという状況ですよ。

でも、皆さん熱意があるので、お金が出ないとは校長先生には言いません。でも、未来を担う子供たちにそういう意味では、ボランティアさんも含めてもう少し何か手だてがあったら。私たちも積極的にもちろん行っていますけれど、そこまでボランティアさんが身銭を切って行っているという状況について、皆さんにお聞きいただければありがたいなと思います。

高階中学校の子どもたちは福祉まつりのときも、ごみ集めから何から本当に一生懸命やってくれていて、将来を担ってくれるということで頼もしいなと思っています。本当にたくさんの子供たちが来て、一生懸命やってくれています。この間、障害児の芋掘りがあったときも、川越西高校の子供たちが自分のお金でバスに乗って来てくれています。そういう一生懸命で熱心な子どもたちがいっぱいいますので、ぜひそういう子どもたちを育てていこうというボランティアさんには、もうちょっと厚くしてもいいのかなというふうに私は考えています。よろしくお願いします。

市長 ご要望として検討させていただきます。

《オリンピックボランティア》

意見 2020年にオリンピック・パラリンピック大会が開催され、川越でもゴルフ競技の会場になっていて、まだちょっと早いかもしれませんが、そのときのボランティアさんの依頼とか要請について、現時点で何かわかっていることがあれば、お知らせ願いたいと思います。

市長 オリンピックの際のボランティアについては、基本的にはオリンピックの組織委員会がですね、要するに自治体ではなくてオリンピック組織委員会が募集するというか、そういう形になろうかと思っています。ただ、そういう正式なボランティアといていいのかわからないけれども、それとは別個に、自治体独自で何らかのボランティアの皆さんのお力を借りて対応しなきゃならないことは当然生じてくると思いますので、そういう部分については、市のほうからお願いをするということになろうかと思っています。

《認知症サポーター養成講座》

意見 私はボランティアグループしゃぼん玉というサークルに所属しています。このサークルは、小・中学校の福祉派遣スクールから依頼を受けて、高齢者理解や認知症の人の対応とか理解について話をしにいらしています。その認知症に関してなんですけれども、今、包括センターが川越の各地で認知症サポーター養成講座というのを開いて、修了者にはオレンジリングというのを差し上げています。川越は小・中学校ではやっていないのですけれども、小・中学校でもこの講座をやって、子供たちにオレンジリングを差し上げたらいかがでしょう。若い人たちが高齢者を支えていく時代がこれから訪れると思いますし、高齢者が増えるので小・中学生が見守っていくということも大事ではないかと思いました。市としてはそのことについてどのように考えているのか、お聞かせ願いたいと思います。

市長 川越市内の学校では今、多分やっていないと思います。あれは国が進めてきたことで、今、川越市内に講習を受けて、オレンジリングを持っている人が7,200人から7,300人ぐらいですか、いるという、そういう状況だと思いますが、力を入れて人数を増やしていかなければならないだろうと思っています。今おっしゃられたように、学校で若い人にそういう知識を獲得してもらって、身近なお年寄りに対応できるようになるのはとても有益、有効だと思いますので、教育委員会と協議をして、教育の分野にも広めていきたいと思っています。

意見 今のお話に関してですけれども、教育委員会とお話をしてくださるときに高齢者だけではなく、今、私も福祉のスクールということで車椅子であるとかアイマスクであるとか、そういうものも皆様に体験していただくように各学校に伺ったりしているんですね。それは校長先生の裁量でなさるところとなさらないところがあるので、ぜひこれは川越市全体として本当に若い、小さいうちから福祉に対する目を持っていただく、思いを持っていただく、優しい心を育てていく、それはとても大切なことだと思いますので、ぜひ全校で実施していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

《防災無線》

意見 時々市役所のほうからご案内の放送がございますよね。

市長 防災無線の放送ですか。

意見 そうです。そのことで、私は、今、山田地区に住んでおりますけれども、とても聞きづらいんですね。何を言っているかわからないです。とても良いことで、高齢者

の方がちょっと行方不明になったとか、そういうのも聞きますけれども、3回ぐらいポワンポワンと言いますので、何もわからないんです。だから、このことは今まで問題にならなかったのかなと思って、ちょうど良い機会だからと思いました。

市長 正直言って、結構聞きづらいという地域はございます。時々そういうご意見が市民意見箱に出てまいります。対応できるところは対応しているはずなんですけれども、例えばこだま、反響が出てしまってというところは、ちょっといろんな大きい建物とか周辺のものによってこだまが生じる、生じないが、あるいはどの程度生じるのかというのが違って来てしまいますので、なかなか対応するのが難しい面がございます。なるべくゆっくりしゃべっていると思うんですけれども、その辺についてやり方を工夫することによって聞きやすくなるような、そういうしゃべり方があるのかどうかも含めて調べて検討はさせていただきます。

意図的にゆっくりしゃべっているというのは、その反響があっても聞けるようにという、そういう配慮でゆっくりしゃべっているはずなんですよね。

意見 かえって飛行機、ヘリコプターみたいなのを通したほうが。あの声はとてよく聞こえるんです。だから、もう防災無線はなくしたほうがいいかなと思ったことがあります。

市長 今やっている振り込み詐欺などはよく聞こえますか。

意見 はい。

市長 そうですね。あれは、たしか県警かなどがやっているんですよね。

意見 とても良いことなのにとて聞きづらいので、もったいないな、というのがまず第一でした。

市長 ただ、これからはですね、その防災無線よりは個別の緊急放送とか、あるいは携帯メールとか、そういう形に変わっていくのではないだろうかと思うんです。というのは、防災無線は、扉、窓を閉ざして、外にゴウゴウ風が吹いていると聞こえやしないんですよね。だから、例えばこの地域に避難勧告が出ました、などというのは、防災無線で流しても、流しただけという、そういう結果になってしまうのがわかっていますので、その伝え方についてもこれからいろいろな工夫をしていこうとしているところです。

意見 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

《シャトルバス》

意見 シャトルバスの件なんですけども、去年たしか改正されましたよね。そのとき

に、シャトルバスを利用している方々からのご意見を伺われたのでしょうか。伺われた結果、ああいうふうになくなってしまったのでしょうか。それとも、予算がないからという面からでしょうか。予算面ということだとしたら、それは私どももよくわかりますけれど、それでもシャトルバスを利用する方というのはご高齢の方などで、不便なところに行くのに本当にとっても良いんですよね。私はオアシスに仕事で出かけますけれど、そこへ行くのにはとても不便なんです。いつもは自転車で行っておりますけれども、雨が降ったりした場合に、シャトルが丁度良い時間でありましたから、以前はものすごく使っていました。その私どもの支線が廃線になってしまったので、これは利用されている方のご意見などをきちんと聞いていただいた結果こうなった、などということが私どもの耳に入ってこないで、そここのところを何とかしてもう少しふやしてほしいかなというところがあるんです。お車を使っていらっしゃる方は別に気になさらないと思うのですが、やはりシャトルバスというのはとても良いものなので、どうせ使うならそういうのがあればいいかなと思います。

意見 あるところでは、乗っていないんですよね。それで地域でミーティングをしたりするとき、「あのバスというのは空気を運ぶバスでしょうか。」という話が出たことがあります。そのぐらい乗っていないところは、全く乗っていないんです。ですから、どういうふうにしたらうまく使えるのかな、とは、よく思っています。空気を運ぶバスだというふうに、うちの大東の地域ではそんな話が出たことがございましたけれど、上手に回すということも難しいですね。

市長 今回の見直しについては、恐らく利用者の方のご意見は伺っていないと思います。何に基づいて路線を廃止したり変更したのかというと、1日当たりの利用者がどのくらいいるのかという、それを各路線について調べてですね、極端に少ない路線については、全くそれこそ空気を運んでいるという、そういう状態なものですから廃止して、別の路線の便数をふやすとか、そういうようなことをやったと思います。特に川越の西部地域方面に行くバスは路線の距離が結構長く、1路線で何十キロもありましたので廃止しました。今まで利用されていた方からの苦情は今でも市民意見箱に入ってきています。市としては、利用者の少ないところについては、デマンドバスといって、電話をかけて呼んでもらって、タクシーみたいに行く乗り合いタクシーみたいなものを、去年と今年、古谷、芳野地域で実験しています。どのくらい利用されるものなのかどうかとかですね、そういうことを。そういうような試験の結果に基づいて、だんだんそういう形で利用者の少ない地域については、デマンドバスか何かで置きかえていくと、そういうような方向で今考えているところです。

意見 ありがとうございます。

意見 ご存じだと思うのですが、中央線の吉祥寺に西回りとか北回りとかいろいろなあるんですけど、あそこのシャトルバスはいつも満員です。本当にどうしてこんなに満員なのかなと思うくらいです。私は姉が吉祥寺に住んでいるので使っていますけれども、本当に皆さん使っています。そして、吉祥寺は路線バスもたくさん動いているんですよ。決して競合しているわけではないと思うんです。あれを川越も少し見習うといいなといつも思っていました。何分に1本、北回り、西回りとか、そのような感じで右も左も回るようになっていくんです。いつも満員で、全員が座れないで立っている状態です。

結局、本数が少ないと皆さん当てにしないんですよ。私は、新宿に住んでおりましたけれど、住み出したころは本当にバスの本数が少なくて、皆さん自転車か車でした。今は南大塚と今福と両方競合していますけれども、常に満員です。ああいうふうに地域の方が当てにするようになっていくと車を使わないし、夜も遅くまで走っているから、駅への送迎を家族に頼らなくてもできるようになりますよね。ぜひご一考いただいて、ああいうバスをもっと皆さんが使えると、お年寄りにあちこち出ただけなのではないかなと思います。

《ボランティアへの感謝の気持ち》

意見 市からボランティアの依頼が結構来るんですね。ボランティアを依頼されるのは私どもの仕事ですので、それに応えてはいるんですが、ちょっと言葉は悪いかもしれませんが、「ボランティアでも使おうか」、「ボランティアならタダだな」とか、そういうことが耳に入らなくても、何かどこかにひっかかっているようなことがあります。ボランティアの依頼をされる時は、ボランティアされる方のお気持ちをよく考えていただいて、これなら誰でもしてくれるかなとか、そういうことをちょっとでも考えていただければ、ボランティアさんも喜んでやってくれると思うんですよ。何となくひっかかることがありましたから、この機会にちょっと言わせていただきました。ありがとうございました。

市長 わかりました。

市民部長 ありがとうございました。

《大東市民センターの立地》

意見 大東地区に新しく市民センターができましたが、あそこはものすごく不便なと

ころにあるんですね。今月2日の日も文化祭がありまして、私もちょっと出たんですけれども、みんなに見に来てくれるか聞いたら、「あそこは不便だから嫌だ」と。どうしても来る方はお年寄りが多いんですよ。そうすると交通手段がないんです。あそこにはシャトルバスはありますけれども、1日2本だけなんです。私も車を自分で運転しないので、雨の日はやっぱり困るなと思います。うちは家族が車を持っていますから、いるときは送ってもらえますけれども、いないときはもう本当に困ってしまいます。あそこをつくるときに交通の便を考えてつくられたのかなということをしごく疑問に思っています。私は去年から民生委員を始めまして、行く回数が多いんですけれども本当に不便です。この間も何かのときに帰りはシャトルバスで帰るといったら、とんでもない時間、全然合わない時間で、困ったなと思いました。たまたまそのときは乗せてくれる人がいたのでよかったのですが、あれはやはりつくる段階で交通の便を考えてつくったのかなと、しごく疑問に思っていました。

市長 大東市民センターの場所については、平成21年に私が就任したときにはもう、ここにつくるということは決まっていたんですよね。いきさつを知っていますか。知らないですか。

市民部長 地元の方で。

市長 地元の人のご意見を聞いて、ここというふうに決めたのでしょうか。

市民部長 1回決まった場所がだめになりました。もともとは川越南高校の東、関越自動車道のもっと小ヶ谷寄りのところの予定だったのですが、最終的にあそこに落ち着いたということです。

意見 でも、あそこは大東地区のど真ん中だそうですね。

市長 そうです。

意見 ちょうどおへそになるところだからと。ですから、あとはうまくそのバスなり何なりが回ってくると、上手に使えるんじゃないかなと。私は大東の一番外れにおりますから、てくてく歩いていきますと、結構いい散歩になるんです。あれをもう少し上手に動かしてください。

市民部長 わかりました。

《障害者の災害時対応》

意見 本年第1回のタウンミーティングで、障害者が災害時に避難することについて、障害に対応した何らかの対応ができますか、というような趣旨のご意見があったかと思っています。私もそういうふうに思うんですが、その辺の検討は少し進んでおられ

るのかどうかということをお聞きしたいです。

私も知的障害を持つ者の親なので、その対応がしやすいように、と思います。災害時だけではなく、例えば本人が何らかの理由で保護者と離れたりしたときに、本人の情報といいますか、本人がコミュニケーションができるのか、例えば糖尿病を持っているかもしれない、そういう情報を非常時だけ見られるような何らかの目隠しをしたカードがあればと思います。個人情報の保護とかいろいろなことがありますけれども、非常時、災害時ということに対して、そういう情報カードのようなものを携帯させておけば、最低限のところは何らかの対応をしていただけるのではないかと思います。そういうことも、例えば災害の対応のマニュアルの中で検討していただきたいと思っています。

市長 災害時に障害者の方たちをどういうふうに避難させるかとか、そういう問題に関しての検討の状況について、ありますか。

福祉部長 前回5月19日ですか、川越市腎臓病患者友の会の方々が出席されまして、内容といたしましては、災害時に障害者独自の治療、人工透析や精神障害などが可能な病院の確保及び非災害地域の自治体や病院との連携状況と避難先の告知についてということでご質問のあったことでございます。回答といたしましては、総務部で地域防災計画を定めておりまして、その見直しの中にこの内容について入れていくということで検討しますということで回答を得ておりますので、今現在その準備を進めております。ご了解いただきたいと思います。

意見 腎臓病の方は特に緊急を要することだと思うのですが、私のところはそういうことも含め、知的障害なので保護されたとしてもコミュニケーションができないんです。ですから、うろうろしているから保護されて避難所に行った。行ったけれども、対応する方がどういう対応しているのかわからないというときがあると思うんです。どの程度コミュニケーションができるだとか、障害者によってどういう特性があるかなど、最低限の対応が避難所なり何なりでできるようにならないかな、と思っています。

市長 そのご本人の情報を記載したカードを持たせるというのは、障害者の方だけでなく、高齢者の方とか痴呆症になりかかっているような高齢者の方用とか、そういうものをぼちぼちと始めている自治体もあるというふうに聞いております。川越市もそういうようなものをなるべく早く導入できるようにしていきたいと思っています。

意見 ありがとうございます。

《災害時の情報伝達方法》

意見 災害時、今まで私たちの中で話し合われたのは、阪神淡路大震災のときも東北の震災のときにも、避難所に行ったときに、情報がよく聞こえない人のところには手話通訳士がすぐ派遣されるのですけれども、全然通じない人たちのほうが多いということでした。ですから、かならず文字を書いて情報を出してほしいということに途中から変わるそうです。手話ではわからないと言われて、じゃ、書いてということ、書くことのほうが確実に伝達されるみたいですので、そういう方法をとっていただけたらと思います。

市民部長 ありがとうございます。

《災害時の安否確認用紙》

意見 民生委員の視察で葛飾区に行ってきたんですけれども、あちらでは災害時、高齢者や障害者のいる家庭に「けが人がいます」とかそういった内容のものを書くものが置いてあります。そして、自治体の人が回ってきたときに、その家の前を通ったら、「この家は大丈夫だ」、「この家はけが人がいる」とかわかるようになっている。そういうものをすごく便利だな、安心だなと思うんですよね。うちは大丈夫だった、大丈夫で無事ですとか、そういったものが4~5枚各家庭にあって、今のところ簡単な紙に印刷したものを配って、各家庭で災害のときに利用してもらおうということ聞いたとき、ああと思いましたね。

市長 ありがとうございます。

《西川越駅から保健センターへの道路整備》

意見 ブックスタートは保健センターで行われることが多いんですけれども、そのときに西川越の駅から保健センターまでというのは、もう吹きさらしの何もないところをひたすらベビーカーを押していらっしゃる方とか、たまにいらっしゃるわけですね。ですから、伊勢原はすごく桜がきれいな並木ができましたけれども、保健というそれこそ衛生、健康であるとか、そういうことを考える施設に向かう道が吹きさらしというのはちょっと悲しいかなと思いますので、ぜひあそこをすてきな並木道にしてくださいたらうれしいなと思います。すみません、要望です。

市民部長 ありがとうございます。

《ボランティアポイント制》

意見 ボランティアをやっている皆さん、福祉大会で私も大会賞というのをいただきましたが、立たれた方を見ていると、やはり皆さん高齢者ですね。それで、感謝状をもらっていただいた方は、杖をついて出られたと思うんです。

やはり何十年かボランティアやっている方は皆さん高齢者で、私たちも、私もそうなんですけれど、自分はいつか施設かどこかへ行かなきゃいけないかと思うんですね。そのときに、何というんですか、点数というものがもらえて、どれだけやったら市が1点とか2点、自分が入ったときに、それを何か有利なことができるというシステムができないものかな、と。よその県でちょっとお聞きしたのは、私たちはこういうふうでやっているよといったら、何か点数をもらえて、自分のときに利用できると言われたんですけれど、そういうところがあるようなんです。川越市もそういうのは考えていただけののかなと思って、お聞きしたいと思いました。

市長 ボランティアポイント制というんでしょうかね、要するにボランティアをやることによってポイントがたまって、それをお金代わりに物を買ったりなんかするのに使えるというのは、結構あちこちでやっているんですよ。ただ、そのポイントをためたことによって、介護施設とか、そういうのに優先的に入れるとかですね、そういうのをやっているというのはちょっと知らないんですが、そういう制度ができるかどうかちょっと研究をさせてもらいたいと思います。

意見 きょうの4時か5時ごろのニュースで、ふじみ野市のそれをやっていましたね。食事をしたりするとき利用したりとかね。

市長 ふじみ野がですか。研究させていただきます。

市民部長 今日はタウンミーティングということで開催させていただきました、市長も途中で話しさせていただきましたけれども、市民意見箱という制度もございますし、3階に広聴課という課もございます、市民の意見を聞いております。何かありましたら、そのような制度を利用していただければというふうに思いますが、なければ、それでは、そろそろお聞きしたいと思います。

市長 今日は皆様方から大変いろいろさまざまなご意見、ご要望を頂戴しまして、大変活発でよかったというふうに考えております。

なかなかご要望の中にはすぐには対応できないものもございますので、その辺のところはご理解いただきたいと思うんですが、ソフトで、要するに簡単に言えばお金が余りかからないでやれることは、なるべく早く対応したいというふうに思いますの

で、よろしくお願ひします。

本日は本当にありがとうございました。